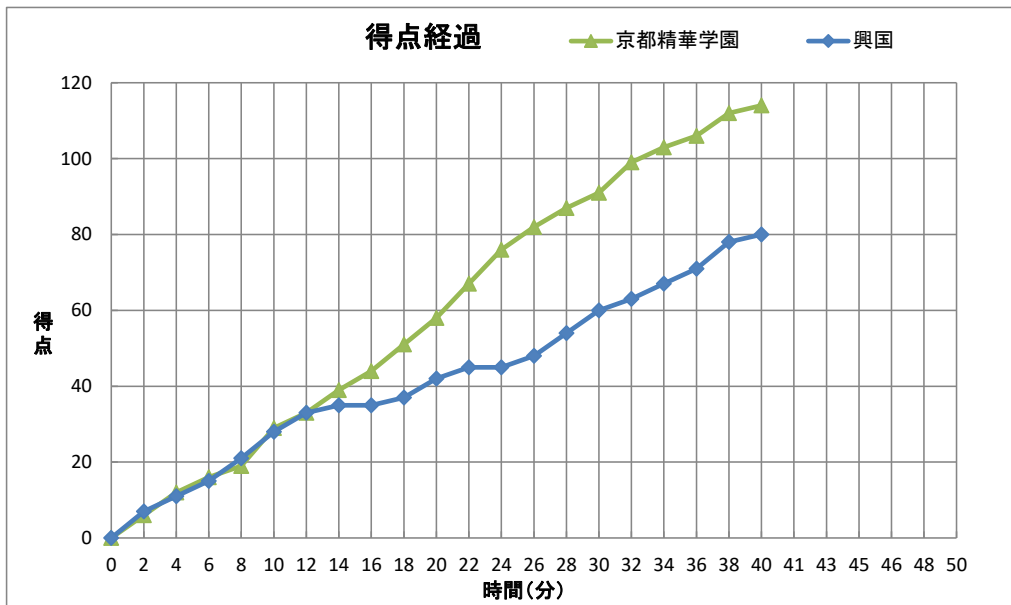




令和4年度
第33回近畿高等学校バスケットボール新人大会

個人トータル表

男子		2月18日		17:25 開始															
準々決勝		滋賀ダイハツアリーナ		A															
◎ 京都精華学園 114		<table border="1"> <tr><td>29</td><td>1st</td><td>28</td></tr> <tr><td>29</td><td>2nd</td><td>14</td></tr> <tr><td>33</td><td>3rd</td><td>18</td></tr> <tr><td>23</td><td>4th</td><td>20</td></tr> </table>		29	1st	28	29	2nd	14	33	3rd	18	23	4th	20	80		興国	
29	1st	28																	
29	2nd	14																	
33	3rd	18																	
23	4th	20																	
番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則						
* 1	金井 奏太	5	1	1	0	0	* 1	今村 仁	7	1	2	0	1						
2	大迫 優成	-	-	-	-	-	7	前野 一貴	-	-	-	-	-						
3	矢野 陽向	10	0	4	2	1	9	伯井 仁	0	0	0	0	1						
* 6	上野 叶翔	10	0	5	0	1	* 10	木村 晃	6	0	3	0	4						
7	佐藤 優真	-	-	-	-	-	13	柳 秀斗	12	2	3	0	2						
13	新開 温矢	8	1	2	1	1	20	石本 泰士	0	0	0	0	2						
14	西村 晴太	5	1	1	0	0	* 23	ウラシカけんとケネチュク	39	4	10	7	2						
* 17	藤内 翔真	17	0	4	9	1	24	角間 好誠	2	0	1	0	0						
18	中井 楓弥	14	0	7	0	1	30	畑中 健汰	-	-	-	-	-						
19	善山 莞太	2	0	1	0	3	32	高谷 大翔	-	-	-	-	-						
30	中西 飛翔	0	0	0	0	0	33	高田 由宇来	0	0	0	0	0						
* 32	東郷 然	9	1	2	2	0	42	高山 隼	-	-	-	-	-						
34	前 和成	8	0	4	0	2	* 44	慎 奏翔	0	0	0	0	3						
39	内山 煌和	-	-	-	-	-	63	岩本 瑠夏	2	0	1	0	1						
* 77	ソロモン レイモンド	26	0	12	2	2	* 71	外村 碧志朝イライシャ	12	0	5	2	3						
コーチ	山崎 翔一朗					0	コーチ	須川 陽介					0						
Aコーチ	土本 光宏						Aコーチ	原田 茂											
合計		114	4	43	16	12	合計		80	7	25	9	19						
主審: 川路 宗勅																			
副審: 木村 裕也																			
副審: 笹本 拓																			



CTO	1・2P		3・4P			OT1	OT2	OT3	OT4
TeamA	6:52	19:10	:	:	:	:	:	:	:
TeamB	14:43	17:30	22:20	24:42	:	:	:	:	:

〔戦評〕
京都精華学園（京都）－興国（大阪）の対戦となった準々決勝。

第1Q、京都精華#1#6#17#32#77、興国#1#10#23#44#71でスタート。京都精華は#77の高さを活かしたゴール下のショット、#17#32のドライブで主導権を握ろうとする。一方、興国は#23の3P、#71のドライブから合わせなど速い攻めで応戦。京都精華が29-28興国で第1Q終了。

第2Q、京都精華は#3のミドルショット、#13#17のドライブで得点を重ねる。疲れの見え始めた興国は、ブレイクから#23の3Pなどで対抗するが得点することが出来ない。京都精華は#17のドライブカウントプレイなどで一気に序盤流れを掴んだ。前半終盤、京都精華は再び#77をコートに戻し、高さを活かしたプレイと#32の3Pでリードを広げる。京都精華58-42興国で終了。

第3Q、興国は2-1-2のマッチアップゾーンDEFで流れを戻そうとするが、京都精華#32のミドルショット、#1の3P、#77のリバウンドショットなどで徐々に点数を引き離される。中盤、京都精華#77の強烈なDEFリバウンドからの速攻で、#32のレイアップショットが決まり興国はたまたまタイムアウト。京都精華が完全に第3Qを支配した。京都精華91-60興国で終了。

第4Q、京都精華は#34#3#34のドライブでペイントを攻め、確実に点数を重ねていく。最後まで諦めない興国は#23のドライブ、3Pで対抗するが点数は縮まらない。総合的に勝る京都精華が、攻守で圧倒したゲームとなった。京都精華114-80興国でゲーム終了。